

## セラピューティック・ライディングを 獣医師として研究・普及したい

川嶋舟さんは獣医師で、馬の研究に深く関わってきている。馬と積極的に関わりだしたきっかけは、学生時代に体験したオーストリアでのセラピューティック・ライディングを行う施設に牧場実習のために滞在したことにあるそうだ。セラピューティック・ライディングとの出会い、その素晴らしさや可能性など馬を様々な角度から見つめようとしている川嶋さんの研究内容と夢を伺った。

### 日本在来馬を 様々な角度から研究しました

「博士課程在学中には、日本在来馬の近縁関係に関する研究を行いました。日本には現在8種類の在来馬がいます。その8馬種の日本在来馬の近縁関係と起源を明らかにすることをテーマとしていました。研究は、形態学的な調査や遺伝子解析による生物学的なアプローチだけでなく、文献資(史)料の調査という歴史学的なアプローチという異なった分野からのアプローチを同時に進めながら研究を行いました。研究対象とした8馬種の日本在来馬は、『北海道和種馬(北海道)』『木曾馬(長野県)』『野間馬(愛媛県)』『対州馬(長崎県)』『御崎馬(宮崎県)』『トカラ馬(鹿児島県)』『宮古馬(沖縄県)』『与那国馬(沖縄県)』です。北海道から沖縄まで日本中を訪ねて調査をするだけでなく、実験室で実験を淡々と進めたり、図書館や資料室でじっくりと歴史資(史)料の調査を行ったりするなど変化に富む楽しい研究の毎日を過ごしていました。

この研究の結果として明らかになったのは、分子生物学的なアプローチによると日本の在来馬は遺伝的な多様性が非常に高いということです。その理由をまだ全て明らかにできてはいませんが、現在のところ考えられる理



東京大学大学院農学生命科学研究科  
農学国際専攻国際動物資源科学研究室

川嶋 舟 研究員

由の1つは、馬が日本に入ってきた時に、すでに多様な遺伝子をもっていた可能性があるということと、もう1つ考えられる理由は、日本に馬が導入された後に日本国内で積極的に馬の移動が行われてきた可能性があるということです。歴史資(史)料の調査では、江戸時代に主な馬産地には全国から馬の買い付けの役人が派遣されるなど、馬の買い付けが行われていたことが明らかになりました。その過程で日本全国に馬が運ばれ遺伝的な多様性が増したことが考えられます。また、江戸時代には、大名の国替えの際に馬を一緒に連れていった記録もあります。このように、全く異なる分野からのアプローチであるのにも関わらず、同じ結果を示唆する内容が得られたことは、非

セラピューティック・ライディングへの  
取り組みは重要な課題です

常に興味深い結果であると考えています。現在も引き続き研究を進め、さらに日本在来馬の起源について明らかにしようとしているところです。」



大学院に進学される以前から、セラピューティック・ライディングの取り組みを国立特殊教育総合研究所の滝坂信一先生と一緒にされていると聞きましたが、具体的にどのような取り組みをされていますか。また、セラピューティック・ライディングに関わるようになったきっかけが何だったのか教えてください。

## オーストリアのセラピューティック・ライディング施設での 出会いがきっかけです

「現在は、主に滝坂先生のグループと一緒にセラピューティック・ライディングの取り組みに関わっています。私がセラピューティック・ライディングに出会ったのは、学部生の時に滞在したオーストリアのウィーン郊外にあるhippotherapy(セラピューティック・ライディングの一分野)を行っている施設での実習でした。ここでは、医師の指示に従って、治療に効果がある馬の乗り方が適切に指導されていました。活動を手伝いながらその効果に感動しました。これが、セラピューティック・ライディングとの関わりの第一歩です。この施設では、馬のことを熟知した医師、理学療法士、馬のインストラクター、装蹄師、そして獣医師が相互に協力・連携しながら乗り手への指導と馬の管理を行う仕組みが構築されていました。

帰国後、大学在学時に滝坂先生のグループが行っているセラピューティック・ライディングの取り組みに出会うことができ、それからこの活動に参加させていただくようになり現在に至っています。」

セラピューティック・ライディングにおける川嶋さんの役割をどのように考えていますか。

## セラピューティック・ライディングの 効果の測定とそれに関わる 動物たちの健康管理の方法の確立が 私の興味ある分野です

「馬だけではないのですが、動物が人と関わる際には、動物に大きな負担を与えることになります。セラピューティック・ライディングに関わる馬たちの肉体的な負担だけでなく、精神的なストレスも見過すことはできない問題と考えます。つまり、セラピューティック・ライディングに関わる馬たちの健康管理を適切に行っていくことが大切になると考えています。セラピューティック・ライディングが人にもたらす効果だけでなく、馬自身の負担を少なくする方法を研究するのも、獣医師としてセラピューティック・ライディングに関わる私の大切な役割の1つだと考えています。」

セラピューティック・ライディングは単なる乗馬だけではないということですね。セラピューティック・ライディングの勉強を志す学生諸君に何かメッセージはありますか。

## 取り組みに関わる人の気持ちだけでなく、 動物の気持ちも理解できるように なりましょう

「セラピューティック・ライディングをはじめとする分野で活動を行うためには動物が好きであること、そして動物の気持ちを感じ取ってその気持ちを理解できることが何より大切なことだと思います。乗り手をはじめとする取り組みに関わる様々な分野の人とも関わる必要がある分野です。動物が好きであることと同じくらい人が好きでなくてはならないと思います。その上で、動物とも様々なコミュニケーションを図ることができるようになってもらいたいと思います。また、生きている動物とともに活動を行うので、一緒に活動を行う動物たちのために自分の生活をあわせることができるようになることも大切だと思います。そして、この分野の勉強は、実践が中心になると思います。勉強そして研究は常に実践と一体となってそこから理論を構築していくことが必要です。人が好きで動物が好き、そして実践をすることが何より好きな仲間を1人でも多く増やしていきたいと思います。」

(聞き手：藤枝 隆)